

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190200448		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホーム花つづじ(和ユニット)		
所在地	鳥取県米子市上福原1丁目10番15号		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detai_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3190200448-00&Ser_vicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和4年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりが、その方らしい生活ができるよう努めております。「お客様には、楽しく生活して頂きたい」「生き生きとした笑顔が見たい」と、企画を計画し、気分転換がはかれるように取り組んでいます。年間行事(季節行事)や誕生日会を開催。適宜ご希望の生け花クラブや、野点の会等施設内での行事を盛んに行っています。法人での統一アンケートを毎年実施し、ご家族様の意見を収集し、意見を取り入れております。コロナ禍で感染症予防の為になかなかご家族様にお会いする機会もなく、施設での生活が垣間見える様な取組として、ホームページへ積極的な掲載を行っています。また、ご家族様やご本人様の「最期まで、つづじで暮らしたい」という要望にお応えし、施設での看取りケアの実施をしています。地域の方の協力を得ながら、この地域で暮らしていけるように力を注ぎ努めていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分が入りたい施設作り」を目指し、利用者のみなさんがゆったりとした気分で日々過ごして笑顔が見れるよう取り組んでおられます。
 コロナ禍になり外出の機会が制限される中、少しでも楽しい企画をと云うことで、グループホーム内での文化的な行事も行なわれ、昭和、平成を振り返る展示が行なわれました。
 それぞれの方の誕生日会も行なわれており、利用者の意向が反映される企画が行われ、みなさんで手作りの甘味を作られたりしております。
 コロナ禍で面会の機会が十分に取れないため、家族に行事の様子等も良く分かるように毎月担当の職員からコメントをつけ、献立表も一緒に送られています。また、家族の方へ毎年アンケートも行なわれており、意見を伺われておられます。看取り対応も行なわれており、最期まで安心して暮らして頂けるよう努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と基本方針があり、理念に基づく「自分が入りたい施設作り」を目指し、接遇強化に取り組んでいる。	法人の理念を基に、ホームの理念を策定され、「自分達が入り隊施設作り」を目指して職員間で話し合いながら取り組まれています。また、毎年の目標を決め実践できるように取組まれています。特に接遇に関してはか力を入れておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症予防の為に外出や、地域交流は中止しているのでできていない。	開設来、地域との関わりを大切にされてきましたが、コロナ禍と言う事もあり、従来通りの交流等が難しい状況です。以前は地域の保育所との交流も行われていました。現在も利用者とは直接関わる交流は難しいですが、ホーム周辺の草刈りや、野菜を頂く交流は継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、事業所の役割り、認知症の人への理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の活動状況を報告し、その内容について出席者の方々に理解をしてもらい、ご意見や提案、助言を頂き、施設内のサービスの向上に取り組んでいる。施設内で起こった事故等の報告も行なっている。	運営新会議は2ヶ月に1回開催されています。コロナ禍の中リアル開催が難しい場合には書面開催しておられます。委員の方からご意見や情報を頂きホームのサービス向上に取り組まれています。職員の気付きとして、意識的にヒヤリハットの収集を心掛け、安心安全なホーム作りを目指しておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターと長寿社会課の職員さんが参加して下さっており、米子市の待機者状況の把握について提案をおこなった。	運営推進会議の際に、市職員や地域包括職員にも参加頂き情報提供頂かれています。判断に困った時には市に連絡し相談をされています。コロナ禍の現在は市からの連絡はコロナ関連のメールが主となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施していない。玄関の施錠については、7:00~18:30は開放している。	身体拘束廃止委員会が定期的開催されており、チェックリストを使用した確認や接遇研修も行われています。安全のためセンサーマットを使用される場合は家族に説明され了承を得た上で使用されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。法人統一研修として、法人で取組を行っており、それを基に、施設内でも研修会を実施し、職員に周知している。	管理者は高齢者虐待防止法について学び、虐待事案を見逃さないようにされています。また、法人内で虐待防止についての研修も実施しておられます。現在指針を作成し、来年度から虐待防止委員会を設置できるように準備されています。	虐待の芽チェックリストを活用し、振り返る機会を持たれる事も良いと思います。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学び、ご家族様に相談を受けた場合等にも、管理者等が話し合えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、お客様や、ご家族様に権利や義務についての説明を行なっている。また、お客様や、ご家族様の不安や疑問な事がある場合には、話を聞き、理解、納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見・苦情を表示出来る場を設け、外部の方やご家族等に対して、回答を行なっている。アンケートを実施し、ご家族様の声を聞き改善に取り組んでいる	意見箱の設置もされており、毎年家族に向けアンケートも実施され意見・要望を伺っておられます。面会ができる状況時には面会に来られた際に話を聞かれ要望等を聞かれています。プラン変更時にも確認されています。利用者の皆さんからは日々傾聴に心掛けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談を行なっている。また、日頃から管理者は、業務中でも職員に声を掛けコミュニケーションを図るようにしている。お客様の日々のサービス内容と方向性については、カンファレンスや全体ミーティングで話し合い、現場の職員の意見を聞き決定している。	管理者は日常的に職員に声掛けしコミュニケーションを図るようにしておられます。また、各ユニットリーダーを中心に、カンファレンスやミーティングの際に職員からの意見や要望を聞き取り反映できるように心掛けておられます。4月には個人面談を行い、個人目標等を設定し、個人の意見等も聞く機会が設けられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個人目標に対しては上司がきちんと評価し、やりがいをもちながら仕事ができるよう心がけている。また、働きやすい職場を目指し、希望の休みや有給取得を推進し取得できている	個人面談を通して個人目標を確認し、上司が評価し、やりがいの持てる職場となるように心掛けておられます。法人の就業規定もあり、休暇取得やシフト等も含め、風通しのよい働きやすい職場作りを目指しておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験等の段階に応じ、研修での技術や知識を学ぶ機会を設けている。グループの研修や法人の研修にもなるべく多くの職員が受講できるようにしている。資格取得に向けても、法人全体で計画を立てバックアップしている。	法人内で決められた研修があり、新人研修・階層別研修等の機会が設けられています。資格取得に向けて法人のバックアップ体制も用意されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修への参加等で同業者との意見交換の場が少ない。同法人内ではグループホーム委員会が2か月に1回リモート開催し、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前には、面談に伺い、お客様の今の思いを聞き、置かれている心身の状況を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前には、必ず面談に伺い、これまでの経緯を聞くと共に、困っている事や、不安な事も十分に聞き、今後のサービスについて一緒に話し合っている。待機期間には、定期的に連絡を取り現状を把握し、いつでも相談できる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今の状況をきちんと把握し、現状で必要なサービスが何かを見極め、当施設で対応出来ない場合には、法人内外の各事業所のケアマネージャーや支援相談員と連携しながらしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、お客様と馴染みの関係を作り、一緒に過ごすことにより、日々の生活を共に楽しんでいる。会話の中から、不満や楽しみ昔の話を聞き、ケアに生かしている。季節行事や、洗濯等の家事、生活の場面に応じ、お客様から教えて頂ける機会が多く持てるよう務めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診・往診の結果をお便りに記載し報告している。面会時や毎月のお便りにて日々のご様子を伝え、職員・ご家族様のお互いの気づきや思いを伝え、ご家族様と情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡をとってほしいとの要望があった場合には、いつでも電話が出来るように支援している。面会はコロナ感染症予防の為に一時中止する等対応している。	コロナ禍の中、面会や外出が難しい状況ですが、コロナ対策を取りながら短時間自宅に帰られた方もありました。また、面会しにくい中、電話の希望があれば連絡を取る支援も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が協力し、洗濯物をたたまれたり、茶碗拭きをされたり、気の合う方との配席替えを行い、楽しく会話できるようにしている。また、お客様同士の、トラブルのないように職員が間に入り、円滑な関係が築けるよう支援している。また、ユニット間を歩き来し他ユニットの方との交流もできている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方に対して、必要時にはご家族様からの相談を受けられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でアセスメントを行い、出来る限り思いや希望が実現できるよう検討を行ない支援している。お客様の思いや希望・意向を元に、誕生日会を実施したり、希望企画も行っている。	利用者との日々の言動等を基にアセスメントを行い、思いや意向を把握し、実現可能なものについて検討し支援されています。誕生日には担当が利用者本人の意向を伺い誕生日会の企画を考えられ、本人の好きな甘味等皆さんで作られて食べられることもあります。	利用者本人の生きがいに繋がる目標作りができると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を元に、日々の会話の中やご家族様から聞き、どのような生活をされていたのか把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、言葉を記録に残し把握している。心身の状態の変化等は、記録と口頭にて申し送り把握している。職員が新たに気づいたこと等はカンファレンスで検討を行いケアの見直しを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様が自分らしく暮らせるよう、関係者の意見を含めて課題となる事をカンファレンスで話し合い介護計画作成に活かしている。6ヶ月に1回モニタリングを行い、ご家族様の承認を得ている。	部屋担当の職員が素案を作り、計画作成に提出されたものを話し合い原案を決定されています。利用者、家族、医師、看護職の意見も聞かれ、法人内のOT・PTから運動面のアドバイスを受けることもあり、多職種で介護計画を作成されています。6ヶ月に1回評価・見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コロナ禍で集まってきた開催が難しいので担当会議は職員と本人様、主治医、ご家族様の意見を聞き行っている。	個別の記録については、タブレット入力が導入されており、データはPC内で管理され職員間で共有されています。記録も見やすくなりました。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	栄養面・運動・補助用具等でのアドバイスが必要な時には、米子エリアの各専門職(看護師・理学療法士・栄養士)や、法人内の事業所(福祉用具)に相談を行い、協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入会し、地域の行事に参加出来るようにしている。現在はコロナ感染防止の為外出は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、またはご家族様が希望された病院が、かかりつけ医となっている。かかりつけ医以外に受診する場合には、ご家族様と相談し医療機関を決めている。	かかりつけ医については、利用者、家族の希望する医療機関としておられ、内科については、現在全員の方が、定期往診のある協力医をかかりつけ医にしておられます。精神科・泌尿器科受診の場合には、利用者、家族の希望に沿った医療機関に受診されています。歯科は必要に応じて往診に来て頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、看護師の配置を行い、健康管理に努めている。体調に変化があった場合は、看護職員との連携を図り対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が生じた場合には、日頃の様子、及びサービス内容について情報提供し、安心して過ごせるよう支援している。(ADL等を情報提供書とし渡している)また、ご家族様や、医療機関と情報交換を行い早期退院に向け支援している。	入院の際には、日頃のホームでの様子等の情報提供を行ない、利用者が安心して入できるようにされ、早期退院ができるように医療機関と連携されています。退院時にも、病院側と退院カンファレンスを開催し退院後の対処等注意事項も伺われています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを実施しており、指針を定めている。お客様の状態の変化が見られた場合には、医師、看護師、ご家族様、管理者、及び施設職員を交え、ご家族様の要望を踏まえ、希望に添えるよう対応を行っている。	契約時に重度化、終末期に向けた方針の説明を行ない、意向を確認されます。重度化が進んできた際には、医師、家族、管理者、職員等で改めて話し合い方向性や意向等を確認されます。看取り対応も実施されており、年1回米子地区の法人事業所全体で看取り研修が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受講している。年1回施設内の救命救急普及員の指導のもと、施設内でも研修を開講している。また、各マニュアルについての研修も行い周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、災害訓練を実施予定している。また、緊急時に備え、緊急連絡網の練習も実施予定としている。	年2回避難訓練を実施しておられます。火災・水害の対応をマニュアルに沿って訓練されています。緊急時の連絡網の確認も行われています。	事業継続計画(BCP)については早期策定を望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛け、対応を行ない、記録等の個人ファイルにも、名前を掲示せずお客様の話をする場合には、実名を出さずに話をしている。また、契約時には、ホームページ掲載等の確認も行い、プライバシーの保護に努めている。	個人ファイルに個人名を掲示せず、部屋の表札も個人名でなくそれぞれ花の名前としておられます。職員間で利用者の様子等については話し合う場合にも実名を出さないようにしておられます。排泄、入浴の際のプライバシー保護についてもマニュアルに沿って行なわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の準備の際、服を選んで頂く等、個々に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースを保ちながら日々生活していただいている。入浴時間も午後と決めず、お客様の希望に添うよう、配慮し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、お客様に洋服を選んで頂いて、本人に気に入ったものを着用されている。また、企画外出時や、ご本人の誕生会には、おしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のお客様の力に合わせ、下準備や、食器拭き等一緒に行なえるよう支援している。食事の内容等でお話をし楽しんで食事してもらえるように取り組んでいる。	食事の準備や片付け等、職員と一緒にお手伝いが可能な利用者には行って頂かれます。3食ホーム内で調理が行なわれ、食事の匂いや音等自宅に近い環境となっています。誕生日、行事食メニューも企画され、手作りおやつを利用者と共に作られる事もあります。コロナ禍なので外食は難しい状況です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、把握を行なっている。一人ひとりの状態に合わせた食事の提供方法を考え工夫し、食事摂取量の確保が出来るよう支援している。また、ムセのみられる方には、トロミを付け提供し、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け及び誘導を行ない、ホール洗面台にて歯磨きを行っている。また、訪問歯科の支援も行い口腔状態の保持に努めている	毎食後、口腔ケアの声掛けが行なわれています。個々の状態により、自身で歯磨き、仕上げ磨き等が行なわれています。義歯の場合には、洗浄を行ない清潔保持に努めておられます。口腔内に課題がある場合など、個別に歯科の往診をして頂く場合もあります。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。トイレ内でも出来るだけ自分の力で動作ができるよう設備を整えている。	排泄チェック表を基に、利用者に必要な支援方法の検討を行い、定期誘導、声掛け、排泄介助等の必要な支援が行なわれています。利用者の方がトイレでの排泄継続出来る支援を心掛けておられます。車椅子対応の広めなトイレで自力動作可能な設備も完備されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促せるよう、便秘気味のお客様には、牛乳や飲むヨーグルト、野菜ジュースを飲用して頂いている。生活の中に体操を取入れたり、出来るだけ体を動かして頂けるよう施設内の散歩も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決め定期的に入浴を実施しているが、お客様の要望(時間や入浴日数)により、臨機応変に曜日変更を行い入浴して頂いている。	基本的には週2回ですが、希望があれば3回入られる方もあります。午前中を中心に入ってもらいますが、時間の対応も臨機応変にされています。特に休まれる曜日はなく一週間通して入浴されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態や、疲れ具合によって、各居室や、お客様の安らぐ場所(落ち着く場所)にて休息できるよう支援している。ホールにも、ソファーを備え付け、好きな場所でくつろげるような環境としている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお客様の薬の目的・副作用・用法・用量について理解している。また、薬が変更になった場合は、きちんと申し送りを行い、服薬変更後のお客様の状態の確認と、状態変化が見られる時には主治医に連絡し指示を仰いでいる。薬のセット・配薬・服薬時は、きちんと手順を決め、重ね重ね確認している。	利用者の薬情報については個人ファイルに綴じてあり、薬の目的、副作用、用法、用量について確認できるようになっています。服薬管理については手順を決め間違いのないように行なわれています。薬の処方変更時には、職員間でも共有し、利用者の変化等に注意を払い、変化が見られ場合には、看護師、医師に相談し対応されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を生かし、また日課・役割となるよう支援している。お客様の力を活かし、季節のお菓子を作る行事を行い、楽しみや気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に外出されている。ご家族様との大切な時間を過ごされ、外出を楽しまれている。	コロナ禍になり外出が難しいので、現在買物は職員が頼まれて代わりに買ってこられています。家族との外出も現在中断しておられます。お天気の日はベランダに出て外気を感じながら、お茶を飲んで頂いたり、ホーム周辺の散歩を楽しまれています。現在ドライブがてらお花見の計画をしておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、自分で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、すぐに電話をかけることができるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に花の絵を飾ったり、季節感の分かる飾りつけを行い工夫している。また、食堂に居れば、家事の音、ご飯の炊ける匂いがし、時には音楽等を流している。好きな時間に自由にテレビも視聴できる。	廊下や壁面に季節感のある飾りや絵を飾る事で季節を感じて頂いております。リビングの日当たりもよく、温度、湿度管理を行い、定期的換気にも気を付けておられます。テーブル、ソファ、テレビが配置されており、利用者各々が好みの場所で心地良く過ごせるよう配慮しておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間としては、食堂が主であるが、椅子を動かし、好きな場所でくつろげるよう居場所の工夫を行ったり、廊下突き当りにソファを置き、一人で外を眺める事ができるような環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、今まで使用されていた馴染みの生活用品を持ち込まれている。またお客様の好みや馴染みの物を継続的に持ち込み、居心地の良いその人らしい居室となっている	少しでも在宅時に近く落ち着ける居室となる様、使い慣れた生活用品や、馴染みのあるも物を持ち込んで頂かれています。また、利用者が使いやすい様にベッドの配置を変更する等、動線確保も行なわれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの戸が同じ色のため、トイレには「トイレ」の看板を付け、トイレを間違えないような工夫をしたり、居室を間違えないよう、居室入り口に目印を置くなど、わかることを意識し取り組んでいる。		